

# 附属中学校指導案 様式

## 〇〇科 学習指導案 (MS ゴシック 14ポイント強調)

平成〇〇年〇月〇日 (曜日) 〇校時  
学 級 琉球大学教育学部附属中学校  
〇年〇組 (男子〇名・女子〇名 計〇名)  
実習生名 〇〇〇〇 印  
指導教諭名 〇〇〇〇 印

### I. 単元 (主題、題材) 名 「〇〇〇〇」 (教科書名 P. 〇, 〇) (MS ゴシック 10.5ポイント強調)

### II. 単元設定の理由 (MS ゴシック 10.5ポイント強調)

#### 1. 単元観

その単元をなぜ行うのか以下の点を考慮しながら記述する。

- ・社会的要求からの見方
- ・児童、生徒の発達段階からの見方(生徒観に記入の場合もあり)
- ・教科、領域、基礎・基本的事項から見た位置づけ
- ・既習内容とこれからの学習内容との関連

- ・学習指導要領での目標と位置づけについて記述する。
- ・これまでに、この単元について、いつ (小学校、中学校の何年生で) どのような内容 (学習指導要領を参考に) で学んできたか。
- ・これから先の学年でどのように扱われるか。
- ・生活の中でどのように生かされていくか。

#### 2. 生徒観 (生徒の実態)

教材に対する生徒の学力や状態を記述する。

- ・既習学習の内容・定着度
- ・生徒の持つ生活体験上の予備的知識等

- ・アンケートや予備テストなど客観的なデータがあればわかりやすい。
- ・学級の雰囲気や授業態度は副次的な要素として扱い学級の紹介文にならないように

#### 3. 指導観

上記の「単元観」「生徒観」を踏まえて、「この単元の内容を、この実態の生徒に対して、どう指導していくか」を記述する。

### III. 単元の目標 (MS ゴシック 10.5ポイント強調)

何を学ばせたいのか、どのような学力を育てたいのか、具体的に記述し明確にする。

- ・【関心・興味・態度】【思考・判断・表現】【技能】【知識・理解】など4つの観点 (国語は5つの観点) について述べる。
- ・学習指導要領に記載されている目標や、それぞれの観点における目標を書く。
- ・目標と教材 (手段) を混同しないこと。

when 節を使える。→×

when 節を使って自分の考えを表現できる学力を育む。→○

### IV. 指導計画 (全体計画) 全〇〇時間 (MS ゴシック 10.5ポイント強調)

**スタイル1(表タイプ)**

学習内容	指導上の留意点	観点・主な評価規準	時数
			1 (本時)

**スタイル2(一覽タイプ)**

第1次 ○○の活用の仕方について理解する・・・(○時間)

第○次 ○○を○○の条件下で活用する・・・・・・(○時間) 本時

**V. 本時の学習 (MS ゴシック 10.5 ポイント強調)**

1. 題材名 (主題名)

上記全体計画より

2. 本時の目標

本時に何を学ばせたいのか、どのような学力を育てたいのか、具体的に記述し、明確にする。4つの観点(のどれに当たるか)について述べる。

《例》

沖縄の伝統工芸について知る →×

沖縄の伝統工芸についての特徴を列挙できる(知識・理解) →○

※ 目標がたくさんあれば良いわけでもない。4観点全てについて列挙しなくても良い。(多すぎて実際に実践できなければ意味がない)その時間に、本当に生徒に学ばせたいことを精査して記述する。

3. 資料・準備物

教師が準備すべき物と、生徒が準備すべき物に分けて記述する。

4. 本時の展開

スタイル1

時間	生徒の学習活動	学習形態	教師の指導・留意点	評価基準(方法)
導入 ○分	<p>何を行うのか、短く具体的に記述。</p> <p>・本時の学習課題、目標を確認する。</p>	一斉 グループ ペア などの 形態か	<p>・本時の学習目標の確認</p> <p>・ワークシートの配布</p> <p>・準備物の確認</p>	<p>何を用いてどのように判断するのか、具体的に記述する。</p> <p>・本時の学習課題や目標を把握できたか&lt;関心・意欲&gt;【ワークシート】</p>
展開 ○分				
終末 (まとめ) ○分				

スタイル2

段階	学習活動	予想される生徒の活動	教師の支援	準備・備考

スタイル3

時間	学習内容	生徒の活動と教師の指導	評価・留意点

5. 本時の評価

本時の目標に対して、何をどう見取り、評価するのかを具体的に記述する。

スタイル1(一覧タイプ)

(1) ○○について○○することができる(ワークシート1-①、実験の結果より見取る)

スタイル2(表タイプ)

目標	評価方法・手段	評価基準 A	評価基準 B	評価基準 C
○○について ○○することができる	ワークシート1-① の記述、実験の結果より見取る。	十分満足できる レベル (例) 歴史新聞の記事 内容が複数の資料 をもとにわかりやす くまとめられている。 また資料や写真の 効果的な提示がな さされている。	おおむね満足で きるレベル  歴史新聞の記事 内容が複数の資料 をもとに作成されて いる。グラフや写真 を使い効果的に見せ ようとしている。	努力を要するレ ベル  歴史新聞の記事 がまとめられては いるが、内容が不 十分である。また 資料や写真の提示 がない。

[引用・参考文献]

書籍名、著者、出版社、第1判の出版年(改定があった場合は、その年)を記述する。  
引用の場合はページ数を記述、Webからの場合URLと確認した年/月/日を記述する。

[資料の添付]

前時までの活動状況がわかる資料やワークシート、本時で使用するワークシートなどを添付すれば、よりわかりやすくなる。

※記述上の留意事項

- ・数字は大きな項立てから I、1、(1)、①の順に使っていく。
- ・英数字は半角、全角の決まりはないが、どちらかに統一して記述し、混在させない。
- ・余白は20~25mm程度、特に左側はファイルに止めることを考慮して余白を設定する。
- ・文字、行数は詰め込み過ぎると読み難くなるので注意する。(この頁は40字47行で設定)
- ・ページ番号を入れる。
- ・作成は極力パソコンで行う。(文字の大きさや行間が揃い読みやすい。また修正が容易)
- ・ポイント数は10.5ポイント程度を基本に、題名、見出し等はそれより大き目のポイント。
- ・極力、特殊なフォントは使わない。(MSゴシック、強調可)